教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 遠藤　晶

研究分野	研究内容のキーワード
子ども学　教育学　保育内容　身体教育学	子ども学　教育学　保育内容　幼児の身体表現　身体教育学
学位	最終学歴
博士（学校教育学）,修士（教育学）	兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 学校教育実践学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1.コンパス　身体表現	2024年7月	「身体表現」の魅力を真ん中におき，子どもが没頭して遊ぶことのできる身体表現遊びを紹介し、保育者養成校で学ぶ学生だけでなく，保育者，子どもにかかわる多くの人々にも活用できるようにした。身体表現の内容を分かりやすく伝えるため，ＱＲコードを本文に掲載し，動画で内容を学ぶことができる。本文内に豊富な写真・イラストを盛り込み，初学者にも分かり易く解説を行う。「新リズム表現研究会」のメンバーが，自ら実践した身体表現遊びを様々な角度から紹介した。（編著者）岡澤哲子・遠藤晶 （共著者）小西智咲子・直原信子・逵井あき穂・範衍麗・渕田陽子・古市久子・松山由美子・森末沙織・柳田紀美子
2.実習にも役立つ身体表現をたのしむあそび作品集	2022年	身体表現の基礎を学ぶ学生や、日常の保育でも実習時の部分実習でも役立つように指導案も掲載した。（編著者）新リズム表現研究会 （共著者）魚住美智子・遠藤晶・岡澤哲子・小西智咲子・直原信子・田辺昌吾・逵井あき穂・範衍麗・渕田陽子・古市久子・松山由美子・森末沙織・柳田紀美子
3.身体表現をたのしむあそび作品集	2018年1月	身体表現の基礎を学ぶ、音楽や絵本を用いた身体表現を小グループで体験する、子どもと身体表現を通して心身の成長を促す実践的手法を身に付ける、子どもの発想を大切に保育者とともに作品を創り上げていくための導入書である。（編著者）新リズム表現研究会（共著者）魚住美智子・遠藤晶・岡澤哲子・小西智咲子・直原信子・田辺昌吾・範衍麗・渕田陽子・古市久子・松山由美子・森末沙織・柳田紀美子
4.保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現	2013年3月	平成22年～24年度科研研究補助金(代表者：古市、課題研究22500554)を受けて行った「幼児の身体表現力を豊かに育てる教育方法の提案」の成果をもとに、身体表現の具体的な教材を示した。身体表現の基礎となる、リズム感、創造性を高める方法、子どもの表現力を育てるための具体的方法について示した。(編著者)古市久子(共著者)田辺昌吾・江原千恵・内藤真希・松山由美子・遠藤晶
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.バトン・チアリーディング部　部長	2021年4月	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.保育士資格 2.小学校教諭専修免許状 3.幼稚園教諭専修免許状		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.大阪府教育センター　保育技術専門研修	2024年8月	
2.教育学科　幹事教授	2023年4月~2025年3月	
3.宝塚市地域児童育成会・民間放課後児童クラブ合同研修会	2020年01月	
4.大阪市私立幼稚園連合会研修	2019年08月	
5.大阪市保育・幼児教育センター公私幼保合同研究会	2018年08月～2019年03月	
6.宝塚市立幼稚園実践・実技研修会	2018年08月	
7.教務部常任委員	2018年4月～2023年3月	
8.学校教育センター常任委員	2017年04月～2018年03月	
9.教務委員	2014年04月～2016年03月	
10.武庫川女子大学子育てひろば講演会	2012年11月～現在	
11.表現運動・ダンス指導者研究会主催　指導者実技講習会	1995年～	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.コンパス　身体表現	共	2024年7月	建帛社	第1章2，第3章2，第4章，第7章2，第7章5，第12章コラム担当 本書は，「身体表現」の魅力を真ん中におき，子どもが没頭して遊ぶことのできる身体表現遊びを紹介し、保育者養成校で学ぶ学生だけでなく，保育者，子どもにかかわる多くの人々にも活用できるようにした。身体表現の内容を分かりやすく伝えるため，ＱＲコードを本文に掲載し，動画で内容を学ぶことができる。本文内に豊富な写真・イラストを盛り込み，初学者にも分かり易く解説を行う。 「新リズム表現研究会」のメンバーが，自ら実践した身体表現遊びを様々な角度から紹介した。（編著者）岡澤哲子・遠藤晶　（共著者）小西智咲子・直原信子・逵井あき穂・範衍麗・渕田陽子・古市久子・松山由美子・森末沙織・柳田紀美子
2.実習にも役立つ身体表現をたのしむあそび作品集	共	2022年3月	かもがわ出版	身体表現の基礎を学ぶ学生や、日常の保育でも実習時の部分実習でも役立つように指導案も掲載した。（編著者）新リズム表現研究会　（共著者）魚住美智子・遠藤晶・岡澤哲子・小西智咲子・直原信子・田辺昌吾・逵井あき穂・範衍麗・渕田陽子・古市久子・松山由美子・森末沙織・柳田紀美子
3.身体表現をたのしむあそび作品集	共	2018年1月	かもがわ出版	新リズム表現研究会で、過去に紹介してきた作品をブラッシュアップし、それぞれの遊びのポイントを示し、アレンジの例を載せた。「身体表現遊びを行う時に困っていること」に対する対応を記載した。身体表現の基礎を学ぶ、音楽や絵本を用いた身体表現を小グループで体験する、子どもと身体表現を通して心身の成長を促す実践的手法を身に付ける、子どもの発想を大切に保育者とともに作品を創り上げていくための導入書である。＜編著者＞　新リズム表現研究会　＜編集委員＞遠藤晶・岡澤 哲子・直原 信子　＜執筆者＞魚住 美智子・遠藤晶・岡澤 哲子・小西 智咲子・直原 信子・上古殿 明子・田辺 昌吾・時森 美智子・中田 千穂・森末 沙織・範衍麗・・古市 久子・渕田 陽子・松山 由美子・柳田 紀美子
4.保育表現技術～豊かに育つ・育てる身体表現 ～	共	2013年03月	ミネルヴァ書房	第6章「子どもが喜ぶ身体表現の教材」（123～175）単著執筆 平成22年～24年度科研研究補助金（代表者：古市、課題研究22500554）を受けて行った「幼児の身体表現力を豊かに育てる教育方法の提案」の成果をもとに、身体表現の具体的な教材を示した。身体表現の基礎となる、リズム感、創造性を高める方法、子どもの表現力を育てるための具体的方法について示した。 （編著者）古市久子（共著者）田辺昌吾・江原千恵・内藤真希・松山由美子・遠藤晶
2 学位論文				
1.子どもの手の器用さについての心理学的研究	単	1999年03月	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士論文	手の器用さが低下しているといわれる教育の現場での問題を解決するために、手の器用さに関する実証的研究を行った。まず、手の器用さの発達に関する文献研究を行ない、次に日常的課題を通して小学生の手の器用さに関する発達的検討を行い、さらに、手の器用さ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2.幼児の手あそびにおけるperformanceの年齢的変化について	単	1996年03月	大阪教育大学大学院教育学研究科修士論文	に関わる要因についての検討を行った。その上で、教育実践上の課題について考察を行った。 手あそびに対する幼児の反応を観察するために、「げんこつやまのたぬきさん」を用いて、１歳児から５歳児までの幼児のパフォーマンスを、動きの再生度、順序性、リズム、歌詞の付け方、表情、姿勢の側面から年齢的に分析を行った。
3 学術論文				
1.保育の質の向上をめざして －保育研究会の在り方の一考察－(査読付)	共	2025年3月	武庫川女子大学大学院,『教育学研究論集』20.17-24.	保育の質の向上をめざすため，保育所や幼稚園の研究会について調査をしていく。その中で，一人一人の子どもへ対応，保育の展開の考察など研究の在り方を検討した。研究者が保育実践をしたたき台となり，保育を考えていく研究会を提案している。（久米裕紀子,遠藤晶）
2.若手保育者の保育中の視線対象に関する検討 ～身体表現遊びの共感的相互作用への気づきに着目して～(査読付)	共	2024年3月	武庫川女子大学大学院,『教育学研究論集』19.1-8.	若手保育者を対象に学生対象の模擬保育中の視線をウェアラブルアイカメラで記録し，保育者の気づきと対応についての事例を分析した。遊びの発展が見られるかを予想し身体の動きを見ていることが明らかになった。（遠藤晶,久米裕紀子,淺川遥）
3.2020年度コロナ禍における教育学部教科教育担当者の授業実践報告(査読付)	共	2022年3月	武庫川女子大学大学院,『教育学研究論集』17.67-74.	2020年度コロナ禍における教育学部教科教育担当者の授業実践報告。(小野賢太郎・遠藤純・山口豊・小島明子・高木史人・神原一之・本多千明・金子健治・藤本勇二・酒井達哉・生地加代・和田垣究・吉井美奈子・大畑幸恵・藤井達矢・遠藤晶・﨑山ゆかり・村井潤・今村一博・西山裕子・日高俊夫・奥村真司)
4.幼児の共感的相互作用を高める保育者の気づきと対応 ～ウェアラブルアイカメラによる記録分析を通して～(査読付)	共	2022年3月	武庫川女子大学大学院,『教育学研究論集』17.7-14.	共感的相互作用を高める保育者の気づきと対応についての事例を分析した。保育者は身体表現遊びの際に幼児の身体の動きや表情に注目し幼児の思いや幼児同士の関わりをよく見て気づこうとしていること，その後の遊びへ発展や変化を期待し一人の表現が周りの幼児たちの表現にも波及することを予想して関わっていることが分析データにより明らかになった。(遠藤晶,久米裕紀子,高橋弘美,酒井真理枝)
5.保育・教職実践演習の授業改善の試み ～「にこにこタイム」の振り返り ～(査読付)	共	2019年3月	武庫川女子大学学校教育センター年報，4：69-76.	「にこにこタイム」を初めて実施した平成28年度は、イメージできる時期が早くなれば、より主体的に取り組めるように情報提供時期が課題として残った。実践2年目となる平成29年度は授業の初回から情報を共有できるように授業計画を見直した。「にこにこタイム」の実施直後のアンケートを通して、主体的に考えて動ける課題であったかについて検討し2年目の授業実践を振り返った。（久米裕紀子・脇田　栄・池川正也・宇留嶋美穂・河合摂子・遠藤晶 執筆担当ページ：アンケート分析・考察）
6.子ども理解を探る保育・教職実践演習(査読付)	共	2018年3月	武庫川女子大学学校教育センター年報，3：131-141.	大学4年次後期の「保育・教職実践演習（幼）」の授業では、保育者としての自覚、意欲を育成することを目指している。子どもと関わる経験を通して、協働、共感、学びを共有し合う授業にするため、実際に幼児の前で保育をする「にこにこタイム」の実践を行った。この実践を通して学生が子どもの理解をより深めることができたか検証を行った。(共著者)久米裕紀子・遠藤晶・山口照代・橋本香代子・大西有紀・伊藤菜穂美　執筆担当ページ：共同研究により抽出不可能
7.幼児の共感的相互作用による身体表現の展開（査読付）	単	2018年3月	武庫川女子大学,『武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)』65，1-9.	本研究の目的は，共感的相互作用による身体表現の遊びの展開について3歳児と5歳児の特徴を明らかにするために、スカーフを用いた遊びを通して観察した。 ３歳児は、一対一の模倣・呼応・同期をきっかけにして，近くにいる相手と楽しみを共有しながら遊びを展開する.５歳児になると模倣や同期を変化させながら遊びを発展させた。遊びに応じた距離感を見つけ，周りの状況を見ながら，相手と協同して遊びを進めるようになることが明らかになった。
8.１歳児と保育者のふれあい遊びにおける共感的相互作用の事例研究(査読付)	単	2017年03月	武庫川女子大学,『武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)』64:1-10.	保育における幼児と保育者の共感的相互作用の実際を理解するために、１歳児と保育者のふれあい遊びの観察事例をとりあげ検討した。１歳児は、保育者にしてもらう遊びに関心を示し、ふれる・揺れるなどの身体刺激を求め、リズムに合わせること、模倣・表現欲求を高めていた。幼児にふれあう保育者は、幼児の様子に応じて遊

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				びを臨機応変に展開し、他児との関係調整に配慮し、複数の１歳児を対象に積極的に関わり、幼児同士が快の感情を共有できるように相互の関係を高めようとしていることが明らかになった。
9.身体表現遊びにおける保育者と幼児の相互作用を高める指導～ 保育者の「言葉がけ」に注目して～（査読付）	単	2014年03月	武庫川女子大学大学院『教育学研究論集』9:1-8.	身体表現遊びにおける保育者と幼児の相互作用を高めるためには，保育者のどのような「言葉がけ」が有効性を発揮するかを検討するために、幼稚園において幼児の身体表現遊びの観察を行い，そのデータから抽出されたエピソードを分析した。幼児が身体表現遊びを楽しむ過程で保育者と幼児の相互作用を高めるには，保育者による「肯定」「反復」「質問」「同調」「言語化」「誘導」「提案」の７種類の言葉がけが重要な役割を果たしていることが明らかになった。
10.対話的な手法によるふれあい遊びの実践―幼稚園2歳児クラスの表現遊びを通して―	共	2012年03月	武庫川女子大学，『武庫川女子大紀要（人文・社会科学）』59:21-29.	幼稚園の２歳児クラスのふれあい遊びの実践を通して、保育者自身の指導の視点、具体的な配慮を実践の記録を見ながら言語化してもらうことで、対話的な手法による保育者の配慮や指導の内容を検討した。遊びの発展に関しては、やりたいことを存分にできるような自由度のある遊びへと、遊びの流れも考慮していた。子どもをよく見て関わりを変え、徐々になりきるために言葉をかけたり、子どもの活動を予測してタイミングよく言葉をかけたりしながら、対話的に遊びを展開していた。子どもが偶然に表現した動きを認め、確認し、友だちと共有するような言葉かけを取り入れていた。（共著者）遠藤晶・松山由美子・内藤真希
11.ふれあい遊びにおける双方向性～手をつなぐ行為に着目して～	共	2011年03月	武庫川女子大学大学院『教育学研究論集』6:21-29.	本研究は誰もが広く親しめる遊びを通して、子どもの感性の育成を目指す着眼点を確認するために、ふれあいあそびによる双方向的展開について、手をつなぐ行為に着目して検討をおこなった。提示者の遊びを基に個別的な遊びへの展開がみられること、また子ども同士の関わりで遊びが瞬時に変化していくこと、それを受けて、提示者が個別的な遊びを全体への遊びへと提案しているなど、子どもたちと提示者の関係において双方向的な遊びの進め方が見られた。手をつなぐ、つながれるという子どもの行為を観察することによって、手をつなぐという積極的な行為と子どもの身体表現の豊かさにも深まりとの関連が示された。（共著者）遠藤晶・江原千恵・松山由美子・内藤真希
12.幼児の異年齢集団によるふれあい遊びにおける相互行為の検討	共	2011年03月	武庫川女子大学，『武庫川女子大紀要（人文・社会科学）』58:23-31.	異年齢集団におけるふれあい遊びの内容を記述することで、幼児の特性を示す相互の関係性について検討した。年長児は見通しを持ち、遊びを継続させようという意識や、他者への配慮という柔軟な調整力が観察され、年少児は無邪気で、自分なりに全身を使って自由に表現し、天真爛漫で自由な表現が年長の子どもたちに影響を与えながら遊ぶ特徴を捉えた。（共著者）遠藤晶・松山由美子・内藤真希
13.子どもの劇つくりにおける保育者の援助	共	2010年03月	武庫川女子大学大学院，『教育学研究論集』5:15-25.	Ｓ幼稚園における子どもたちの劇つくりの過程における保育者の援助を分析し，劇つくりにおける保育者の役割を明らかにした。（１）劇遊び・劇つくりの概念の整理，（２）劇つくりに関わる保育者の役割に関する研究の概観と，保育における援助の問題点の指摘，（３）幼稚園における劇つくりの実践における保育者の語り，援助の内容を分析し，劇つくりにおける保育者の役割について考察した。（共著者）遠藤晶・江原千恵・松山由美子・内藤真希
14.幼児の「表現する過程」を大切にした劇つくりの実際	共	2010年03月	武庫川女子大学，『武庫川女子大紀要（人文・社会科学）』57:27-34.	「幼児の一人ひとりが表現する過程を大切にする」ことを保育のねらいに設定しながら進めた幼稚園年長児の劇つくりを通して、子どもの育ちや保育者の指導のあり方を明らかにすることを試みた。劇つくりの過程で、子どもたちの楽しんでいる姿に触発されて、保育者も劇つくり指導が楽しくなり、さらに子どもたちが劇つくりを楽しむことにつながることが観察された。保育者と園児が「共に劇をつくる」関係で、幼児の仲間意識や、「自分たちで作る」思いを強くし、保育者の発表会に対する意識さえも変化したことを報告した。（共著者）遠藤晶・江原千恵・松山由美子・内藤真希
15.表現遊びの作品作成過程における学びの要因-保育者を目指す大学生の集団活動を	単	2009年03月	武庫川女子大学，『武庫川女子大紀要（人文・社会科学）』56:1-8.	グループで表現遊びの作品を作成する演習を通して受講者がどのような体験をし、どのような学びをしているのかを知るために、「保育内容表現Ｉ」の大学生を対象にアンケート調査を行った。さらに、提出された演習課題に対するレポートの自由記述をもとに表現

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
通して-				遊びの作品作成過程におおける学びの要因を考察した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.保育の質を高める実践④ ～関わりを促す場面に着目して～	共	2024年5月	日本保育学会第77回大会発表論文集,K143-K144.	子どもの相互関係とそれに注目する保育者の視点を、短時間に・定量的に・把握できる方法を開発し、保育者の子どもの相互関係に対する注目ポイントや、関わりを促す言葉がけなどの保育実践の振り返りに活用できるか検証を試みた。(共著者)遠藤　晶・久米裕紀子
2.保育の質を高める実践② ～模擬保育における保育学生の視線に着目して～	共	2023年	日本保育学会第76回大会研究論文集,K63-K64.	保育学生がウェアラブルアイカメラを装着して模擬保育を行い、その際の指導の言葉がけの前後の視線の動きについて具体的に検証した。(共著者)遠藤　晶・久米裕紀子
3.身体表現あそびにおける共感的相互作用を高める保育者の視点② ～ウェアラブルアイカメラによる記録分析を通して～	共	2022年5月	日本保育学会第75回大会研究論文集,K-249-250.	保育者が子ども同士の関わりから生じる遊びの変化を期待し、意図した言葉がけや認めながら遊びを展開する援助に対して、子どもたちが保育者の援助を心地よく感じ、自分の思いを更に伝えていこうとする共感的相互作用の高まる事例を通して検討した。(共著者)遠藤　晶・久米裕紀子
4.身体表現あそびに おける 共感的相互作用を高める保育者の視点 劇遊びにつながる保育者の援助に着目して	共	2022年5月	日本保育学会第75回大会研究論文集,K-247-248.	劇遊びにつながる保育者の 保育 計画 や 保育者の 「共感」「イメージの共有」「意味づけ」「認め」などの援助について検討した。生活発表会 に向けて、絵本「 みつばち ぶんぶん」 (ひかりのくに をテーマに取り組んでいる 表現遊びの事例を挙げながら、保育者は 子どもの思い に アンテナを張り、 受け止め、感心したり、強調したり、驚いたり、納得したことを、子どもたちに伝え子どもたちを認めて援助をしていることを明らかにした。(共著者)久米裕紀子・遠藤晶
5.幼児の身体表現の指導における保育者の気づき ～ウエアラブルアイカメラによる保育学生と指導経験者の視点分析を通して～	共	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会発表論文集, 162.	身体表現の遊びの動画視聴による実験調査場面でのウェアラブルアイカメラによる注視対象の視線記録を用いて、身体表現遊びのなかで保育者と子どもの共感的相互作用が高まる遊びを見る視点が保育学生と指導経験者で違いがあるか比較検討を行った。(共著者)遠藤　晶・久米裕紀子
6.幼児の身体表現の指導における保育者の気づきと対応②～遊びこむ姿を読み取る保育者の援助に着目して～	共	2021年5月	日本保育学会第74回大会研究論文集,P85-86.	設定保育の中で「遊びこむ」姿につながる援助とはどのようなことなのか。遊びの中で、その子らしさを存分に発揮させて「本気になる」「遊びこむ」姿への保育者の気づきや援助について、ウエアブルアイカメラによる視線行動、言葉がけの記録より、子どもの姿への保育者の寄り添い方を考察した。(共著者)久米裕紀子・遠藤　晶
7.幼児の身体表現の指導における保育者の気づきと対応①～ウエアラブルアイカメラによる気づきの検討～	共	2021年5月	日本保育学会第74回大会研究論文集, P83-84.	身体表現の遊びにおいて、保育者がどこを見て何を感じてどのように指導をしているのかを明示するために、本研究ではウエアラブルアイカメラを装着した保育者の視線行動記録をおこない、保育者の気づきと対応について可視化を試みた。(共著者)遠藤　晶・久米裕紀子
8.保育者は子どもの身体表現のおもしろさをどのように見るのか	単	2020年05月	日本保育学会第73回大会研究論文集,P861-862.	保育者は身体表現の遊びの際、身体表現をよく観察し絶妙なタイミングで言葉がけをしている様子がみられるが身体表現の遊びの何に気づき、どのようなことを感じて、ことばかけをするのかを調べるために保育者の視線記録を手がかりに気づきの言語化・可視化を試みた。気づきの観点として、①子どもの動き方や身体をつかった表現のおもしろさに対する気づき②子どもの関係性に対する気づき③積極的に参加しようとしない子どもに対しても推測をしながら受容的に見ていることなどが示された。
9.保育現場における日常の身体表現遊びの実践と課題	共	2019年05月	日本保育学会第72回大会研究論文集,149-150.	身体表現の指導における困り感について、キャリアによって差が見られる内容は、「表現遊びの双方向的指導法」、「表現遊びの内容」、「子どもの意欲を高める方法」であり、「発達の特性を踏まえた集団指導」についてはキャリアの差がなく困っている内容であることを示した。身体表現の指導法について、保育者のキャリアに

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				よって得られる具体的指導内容を究明すること、また発達の特性を踏まえた共感性を高める身体表現遊びの方法などの課題が抽出された。 (共著者)遠藤晶・岡澤哲子・ 直原信子・魚住美智子・小西智咲子・渕田陽子・ 松山由美子・ 森末沙織・ 柳田紀美子
10.共感的相互作用による身体表現遊びの展開	単	2018年5月	日本保育学会第71回大会研究論文集,887.	「共感的相互作用」がもたらされる身体表現の遊びの展開について、視覚と運動を刺激するおもちゃを用いた幼児の遊びの事例を通して検討した。誰かが偶然見つけた遊びや発見した遊びを模倣や同調をきっかけにして動きを伴う対話のように遊びが展開し、笑顔などの表情交流や接近して互いに快感情を伝えながら遊びが共有された。スカーフはダイナミックな身体の動きを誘発する素材であることを示した。
11.幼児の手遊びにおける共感的相互作用～サーモグラフィによる温度測定と表情の関連からの検討～	単	2017年03月	日本発育発達学会第15回大会プログラム・抄録集.	幼児が手遊びをする時にも共感的相互作用が観察できるのかを、サーモグラフィによる温度測定と表情の関連から検討することが目的であった。観察グループ全体として手遊び実施前後 の温度変化については有意な差は認められなかった。個別に検討すると、鼻の温度が下降した幼児は、歌いながら表情も明るく積極的に手を動かし 、歌いながら手を動かした 。また鼻の温度が上昇傾向の幼児は手を動かして模倣はしているが歌うことはなく、硬い表情で緊張していることが読み取れた。本研究を通して、他者との遊びへの積極的なかかわり度合い、つまり共感的相互作用の強さに応じて顔の温度変化に差があることが示唆された。
12.手遊びにおける共感的相互作用～身体表現の活性化に関するサーモグラフィによる検討～	単	2016年03月	日本発育発達学会第14回大会プログラム・抄録集,61.	手遊びによる「共感的相互作用」を観察し、皮膚表面温度の変化を検討した。課題「あんたがたどこさ」の手遊びを一人で行い、次に3人で向かい合って一緒に行った。調査対象者４人の額と鼻頭の温度をサーモグラフィで15秒間ごとの測定データにより試行前後の変化を比較した。一人で行うときよりも3人で行うと、額の温度は変化しなかったが、鼻頭の温度は低下した。このことから、ストレスによるまたはネガティブな感情による血管収縮はないが、呼吸量が増加したためと考えた。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.あ、あめだ！	共	2019年11月	幼児のリズム遊び・小学校の表現運動・中学校，高等学校のダンス－指導者実技講習会	オノマトペを手掛かりにイメージを広げ、自分のカラダの感覚に向き合いながら、様々な表現を経験する作品を提案した。座位で、手だけで、次は座位で手と足で、最後に立位で、即興的に表現することを楽しめるようにした。(作品構成)森末沙織・魚住美智子・範衍麗・遠藤晶・新リズム表現研究会(作品構成)森末沙織・魚住美智子・範衍麗・遠藤晶・新リズム表現研究会
2.どこどこ！　バス	共	2018年11月	幼児のリズム遊び・小学校の表現運動・中学校，高等学校のダンス－指導者実技講習会	ひとまとまりの発表作品になるアイディアを紹介するために、「バス」をテーマにした手遊び、表現遊び、ダンスの作品を提示した。①バスの替え歌手遊び、②どこどこバス（表現遊び）、③このみちどんどんのダンスを例示して紹介した。小道具を活用することでイメージが膨らみ動きに彩りが加わることを演習を通して学べるようにした。(作品構成・講習会指導)岡澤哲子・遠藤晶・直原信子・小西智咲子・魚住美智子・柳田紀美子・森末沙織・渕田陽子・新リズム表現研究会
3.ふしぎな　ふしぎな木	共	2017年11月	幼児のリズム遊び・小学校の表現運動・中学校，高等学校のダンス－指導者実技講習会	五感＋αでたのしむ　ふれあい表現あそびの作品である。さわると葉っぱが出てくるふしぎな木がある。もっとさわってみると今度は実が出てくる。もっともっとさわると、不思議な木が動き出し、ダンスを踊る。幼児が木を見て、触って、音を聞き、匂って、木の実を食べるなどの経験を通して得られた感覚を表現する楽しさに結び付けていくようにした。さらに友達と一緒に表現する楽しさを広げられるよう一緒に踊る場面を作品に加えた。(作品構成・講習会指導)遠藤晶・直原信子・小西智咲子・新リズム表現研究会
4.あな、あな、あな～もぐらアドベンチャー	共	2015年08月	幼児のリズム遊び・小学校の表現	日常の遊びから発表会へ「あな、あな、あな」を紹介した。『あな』に関係ある絵本、『あな』に関係ある歌とフォークダンス、あ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
～			運動・中学校，高等学校のダンス－指導者実技講習会	なをイメージする遊びを身体表現遊びに展開した作品、「あな　あな　あな　～もぐらアドベンチャー～」を紹介した。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.感性を育む音楽教育～リズムと表現を楽しむわらべうた・あそびうたを通して～	単	2019年03月	社団法人大阪市私立幼稚園連合編研究・研修集録第49,40-41.	教育・保育理論研修の内容をまとめた。リズムと表現を楽しむあそびを通して積極的な活動が期待される。初めて出会うあそびに難しいと感じるところがあれば、簡単なことからはじめることが必要となる。何度も動きを変化しながら続けてあそぶことで、楽しいという気持ちが刻まれ、人とのつながりが広がる。幼児の心と身体を育てるために、リズムに合わせて表現を楽しむあそびを大切にすることを解説した。
2.いっしょにあそぼうみんなであそぼう～共感的相互作用を高める楽しいあそび～	単	2018年3月	武庫川女子大学	科学研究費補助金　研究種目：基盤研究(Ｃ)26350946　の成果を保育所・幼稚園の保育者に報告するため作成した資料である。科研研究を通して、幼児は相手にリズムを合わせようとする、テンポをだんだん速くすると相手と遊びが崩れないように合わせようとする、相手のことを考えながら遊ぶ、見せ合う、教え合う、遊びの提案をする、笑い合う、相手と心地よい身体接触を楽しむなど、遊びをきっかけに互いの共感的相互作用が高まることが観察できた。共感的相互作用が高まる遊びとして、わらべ歌、遊び歌がある。保育者が活用できるように、歌詞、遊び方、遊びの発展の仕方などをまとめ、保育の内容や指導方法を伝える研修資料として作成した。
3.研究の報告	単	2017年2月	大阪市教育センター,『研究紀要』34：1-8.	大阪市教育センターからの委託を受け、平成27年度～28年度の研究指定園を受けた大阪市公立私立2園の研究の概要報告をした。
4.リズムに合わせる楽しい遊び～じゃんけん遊びを考える～	単	2016年	社団法人大阪市私立幼稚園連合編研究・研修集録第46,48-50.	大阪市からの委託を受け大阪市私立幼稚園の研究・研修事業として実施された経験別研修の内容報告である。リズムに合わせる“じゃんけん遊び”の楽しさを実際に体験しながらその遊びの魅力について考察した。じゃんけんは掛け声に合わせる単純な遊びであるが、リズムに合わせる動きや、ふれあいを楽しむ遊びにも変化して表現遊びにも活用できることを紹介した。
5.リズム活動を考える	単	2015年03月	社団法人大阪市私立幼稚園連合編研究・研修集録第45,47-49.	大阪市からの委託を受け大阪市私立幼稚園の研究・研修事業として実施された経験別研修の内容報告である。子どもに伝えたいリズムのある遊びを紹介し、実際に遊びながらリズムに合わせるとはどのような感覚か、リズムに合うようになるとどのような心の変化があるかについて述べた。
6.感性を揺さぶるリズム遊び	単	2013年03月	社団法人大阪市私立幼稚園連合編研究・研修集録第43,　68-70.	大阪市からの委託を受け大阪市私立幼稚園の研究・研修事業として実施された夏期研修の内容報告である。リズムに合わせる遊びとして、手遊び・歌遊びを取り上げ、具体的な育ちの事例を示し、日常の生活にはない面白い動きを楽しみ運動機能を高めること、知的欲求を高めること、方言や地域独特の言い回しがあり、ことばの面白さ知ることができること、世代を超えて遊ぶことができることを強調した。
7.子どもの育つ力を支える子どものリズム遊びⅠ・Ⅱ	単	2013年03月	社団法人大阪市私立幼稚園連合編研究・研修集録第43,　31-34.	大阪市からの委託を受け大阪市私立幼稚園の研究・研修事業として実施された経験別研修の内容報告である。リズム遊びを通して、子ども同士のかかわりを豊かにすること、新しい遊びを知る楽しさを知ること、やり取りを楽しむことができることを示し、具体的な教材を示した。
６．研究費の取得状況				
1.幼児の共感的相互作用を高める保育者の指導力向上に関する研究	共	2023年4月～現在	科学研究費補助金　研究種目：基盤研究(Ｃ)	研究代表者：遠藤晶 研究分担者：久米裕紀子
2.幼児の共感的相互作用を高める身体表現遊びの指導法	共	2019年4月～2022年03月	科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ）	研究代表者：遠藤晶 研究分担者：久米裕紀子
3.幼児の共感的相互作用を高める身体表現遊びの指導法	単	2018年06月～2019年02月	平成30年度科学研究費補助金学内奨励金	研究代表者：遠藤晶
4.幼児の身体表現活動	単	2014年04月	科学研究費補助金	研究代表者：遠藤晶

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
における共感的相互作用の解析とその応用		～2018年03月	基盤研究（Ｃ）	
5.幼児のふれあい遊びにおけるインタラクションに関する研究	単	2010年07月～2011年03月	平成22年度科学研究費補助金学内奨励金	研究代表者：遠藤晶
6.幼児の身体表現力を豊かに育てる教育方法の提案	共	2010年04月～2013年03月	科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ）	研究代表者：古市久子 分担者：遠藤晶・松山由美子・内藤真希・田辺昌吾
7.幼児期における「身体の表現」の内容と保育者の指導に関する研究	単	2008年06月～2009年03月	平成20年度科学研究費補助金学内奨励金	研究代表者：遠藤晶

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.1996年～現在	日本発達心理学会
2.1994年～現在	新リズム表現研究会　代表
3.1992年～現在	日本保育学会